

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月4日

【評価実施概要】

事業所番号	0870301124		
法人名	池田観光開発株式会社		
事業所名	グループホーム鶴沼の里(2)		
所在地	茨城県土浦市神立東1丁目16-33 (電話) 029-830-0220		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918	茨城県総合福祉会館内	
訪問調査日	平成20年10月21日	評価確定日	平成21年2月4日

【情報提供票より】(平成20年9月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年2月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤	12人, 非常勤 人, 常勤換算 12人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての 1 ~ 2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	共益費 20,000 円
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(250,000円)	有りの場合償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要(平成20年9月10日現在)

利用者人数	11 名	男性	6 名	女性	5 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4			
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 80 歳	最低	72 歳	最高	89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	神立病院 筑波病院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者や職員は利用者一人ひとりに優しく寄り添い、信頼関係を大切にしながら利用者の主体性を尊重した支援をしている。
 医療連携による看護師の訪問が週1回あり、利用者とのコミュニケーションをとりながら健康管理を支援している。
 利用者のケース調査表やアセスメント表を活用し、利用者や家族の意向を踏まえた介護計画を作成するとともに、毎月ケアカンファレンスやモニタリングをしている。
 また、サービスの支援記録をまとめるなど、ケアマネジメントの一連のプロセスを継続的に行い、サービスの質の向上に努めている。
 利用者一人ひとりの対応マニュアルを作成するなどきめ細やかに支援している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営推進会議を2ヶ月に1回開催するとともに、家族等の意見を汲みあげるためにアンケートを実施している。 介護計画は毎月モニタリングを行い改善している。 職員の育成やターミナルケアに向けた対応は改善には至っていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の結果を職員に周知するとともに、改善について話し合いサービスの質の向上に活かしている。 自己評価は管理者だけで作成しているので、自己評価の目的や意義を全職員が理解したうえで自己評価に取り組み、サービスの質の向上に活かすことを期待する。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議を定期的に開催し、生活の様子や行事などを報告するとともに、ホームの取り組み内容やターミナルケアなど諸課題について話し合っている。 会議で出された意見や要望等をサービスの質の向上に活かしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>玄関に意見箱を設置するとともに、苦情の相談窓口や担当者を配置している。 重要事項説明書に第三者外部機関を明記している。 サービスの充実を図るためアンケートを実施し、意見等を運営に反映している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の小学校や市民運動会に参加したり、踊りや演奏など地域のボランティアを受け入れているが、利用者が地域の人々と積極的に交流するまでには至っていないので、ホームの行事に地域の人々の参加を呼びかけ、訪問しやすい環境づくりを検討するとともに、清掃活動など地域活動に参加する取り組みが望まれる。</p>

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「人権の尊重・個別ケア・社会交流」を理念とし、利用者が地域の一員として暮らすことを目指している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関や事務所に掲示するとともに全職員で復唱し、意識を高めながら信頼関係を大切に支援している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の小学校や市民運動会に参加したり、踊りや演奏など地域のボランティアを受け入れているが、利用者が地域の人々と積極的に交流するまでには至っていない。	○	ホームの行事に地域の人々の参加を呼びかけ、訪問しやすい環境づくりを検討するとともに、清掃活動など地域活動に参加する取り組みが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果を職員に周知するとともに改善について話し合い、できるところから改善に着手しサービスの質の向上に努めている。 自己評価は管理者だけで作成しており全職員で自己評価をするまでには至っていない。	○	自己評価の目的や意義を全職員が理解したうえで自己評価に取り組み、サービスの質の向上に活かすことを期待する。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的開催し、生活の様子や行事などを報告するとともに、ホームの取り組み内容やターミナルケアなど諸課題について話し合っている。 会議で出された意見や要望等をサービスの質の向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者と課題や疑問などについて話し合うとともに、運営に関する助言を得るなど連携を図っている。 また、市が設置する地域密着連絡会に加入し情報交換をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時や電話を利用し日々の様子や健康状態を報告するとともに、毎月の利用料請求時に預かり金収支報告と生活状況を書き添えて郵送している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置するとともに、苦情の相談窓口や担当者を配置している。 重要事項説明書に第三者外部機関を明記している。 サービスの充実を図るためアンケートを実施し、意見等を運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員の離職を回避するため当事者とよく話し合い、配置換えを行うなど配慮している。 新任職員は利用者に馴染んでもらえるよう積極的に話かけるなど不安の解消に努めている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の採用時研修は実施しているが、その後は自主的な研修参加となっており、計画的な職員育成に取り組むまでには至っていない。	○	職員一人ひとりのスキルアップを図るため、段階に応じた研修を受講できる体制づくりや内部研修を実施するなど、研修の機会を確保することを期待する。 また、受講した研修内容を全職員に周知する取り組みも期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着連絡会に加入し、管理者は情報交換や勉強会を行っているが、職員間で交流する機会をつくるまでには至っていない。	○	同業グループホームとの交流を通してサービスの質の向上や職員育成に役立つよう連携を図ることを期待する。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に自宅を訪問したり、利用者や家族に見学に来てもらったりしながら利用に関する面接や相談をしている。 ホーム見学の際には利用者とお茶を共にするなどホームの雰囲気に馴染めるよう配慮するとともに、体験利用の受け入れ体制を整えている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は一つ屋根の下で家族のように接し、利用者から料理を教してもらったり、昔のことを話してもらったりしながら利用者と共に生活するなかで信頼関係を築いている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活歴やホームでの生活の意向について、利用者や家族から聴取している。 また、普段の関わりのなかで気付きなどを職員で話し合うとともに生活日誌に記録し、思いや意向を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意向を踏まえてサービス担当者会議を開き、職員の意見を取り入れた介護計画を作成している。 また、家族と話し合い同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は毎月モニタリングを行い、目標の達成状況や期間、心身の状況の変化に即して見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携による看護師の訪問が週1回あり利用者の健康管理をしている。 また、通院支援や理美容院の送迎など要望にそって柔軟に支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の状況に応じた通院や月1回嘱託医の往診がある。 緊急時に対応可能な24時間体制の協力医療機関を確保している。 医療機関と連携を図り、受診状況を記録するとともに家族への報告を密にしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応や看取りに関して医師や家族と話し合い情報を共有しているが、書類等による記録がなく対応方針を共有するまでには至っていない。	○	終末期に対する対応指針を定め重要事項説明書に明記するとともに、早期から利用者や家族、医療関係者と話し合い対応方針を共有することを期待する。 また、重度化や終末期の職員の対応について、マニュアルなど看取りに関する書類の整備も期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者一人ひとりに優しく接し、誇りやプライドを傷つけない言葉かけや支援をしている。 個人情報の利用目的を明確にし、家族の同意を得るとともに記録等は事務所の鍵のかかるところに保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを尊重し、居室でラジオを聴いたり読書をしたり、散歩に出かけるなど利用者の思いや希望にそって支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月1回「ランチの日」と名付けて利用者が主体となり献立から調理までを行うなど、利用者が持っている力を発揮している。 利用者と職員が食卓を囲み、和やかな雰囲気の中で食事を楽しんでいる。 また、後片付けなど利用者のできることは見守りながら一緒にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できる体制になっており、生活習慣や希望にそった入浴支援をしている。 入浴を拒む利用者には言葉かけなど工夫しながら入浴できるよう支援をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理や食器拭き、掃除、草とりなど利用者のできることを把握し、状況に応じた場面づくりをしている。 季節の行事や家族を交えた食事会、外食など楽しみのある生活を支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望にそって散歩や買い物、ドライブ、図書館など日常的に戸外へ出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	2ユニットそれぞれにある玄関はオートロック式になっているが、1箇所からは利用者が自由に入出入りしている。 また、利用者の状況に応じて施錠せず開放している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回消防署の協力による避難訓練を実施している。 災害時に適切に対応できるようマニュアルを作成している。	○	自治会活動や地域防災対策の把握に努め、運営推進会議等を活かして避難訓練に地域の人々の協力が得られる体制づくりを期待する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	保健所の栄養士に献立表を見てもらうなど専門的な視点からも指摘はなく、バランスのとれた献立になっている。 利用者の嚥下状態に配慮した食事を提供するとともに、1日を通して利用者一人ひとりの栄養・水分摂取量を把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの日差しは遮光カーテンで調節し、利用者が寛げるようゆったりしたスペースを確保している。 また、不快感のないよう換気を十分にしている。 季節の花や利用者の撮った写真を飾り、居心地よく過ごせるよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたベッドや家具、テレビなどを持ち込んでいる。 また、家族の写真を飾ったり装飾を施したりして安心した生活ができるよう配慮している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。